

スペースフロンティアの地へ

東北から広がる宇宙産業

今月8日、宇宙スタートアップをはじめ民間企業、国、自治体などの宇宙産業関係者が宇宙産業の未来を議論するため、福島県南相馬市に集結した。今年で3回目となる「福島スペースカンファレンス2025」だ。南相馬市が共催、内閣府宇宙開発戦略推進事務局などが後援した。3会場で複数のセッションが行われ、各会場は熱気に包まれた。特に「量産化への動き」と「自治体の受け入れ」に焦点を当てた。

セッション 福島沿岸地域と東京 産業はいかにに立ち上がり、量産化するのか？



それぞれの立場で産業化への課題などが話し合われた。

構想や資金、人材が集まる東京。一方、「実証の聖地」福島。部品実証から量産化まで段階的な開発が求められる宇宙産業。どのように連携を構築していくのか。意見が交わされた。開発にスピード感が求められる宇宙産業。サプライチェーン（部品供給網）を担う地元企業の立場から、南相馬航空宇宙産業の立ち上がり、量産化への課題などが話し合われた。

政策連携へ地元との対話重要

業研究会の高山慎也会長は「中小企業は背伸びをしない」と追いつけないと指摘。時間や資金、全てを宇宙にシフトするには厳しさもある。宇宙産業に参入する際の地元企業への応援をもっと厚くすべきとの意見だ。行政側からは「政策の連携が欠かせない」との視点を示し、広い意味で地域に根ざした横の連携が求められている。宇宙スタートアップ側からは「『地方VS都会』の図式ではない。どちらも結びつけていく対話がまだ必要」とし、どちらのポテンシャルも高め合う政策づくりが新たなエンジンになると見通す。

セッション 福島沿岸地域の宇宙開発 新たな産業を受け入れること

大手製造業の航空宇宙部門の受け入れに始まり、近年は宇宙スタートアップが集まる福島沿岸部の自治体。新たな産業の成長を支えていくことはどのような姿勢なのか。各自自治体の取り組みが紹介された。



「連携」。南相馬市商工観光部の森政樹宇宙関連産業推進担当課長は「自治体間の連携が一段と必要」と強調。みんなで取り組んでいく姿勢を呼びかけた。サプライチェーンの構築カギ

自治体の取り組みをそれぞれ紹介した。

福島スペースカンファレンス2025



AstoroXによる小型ロケット「FOX1号」の打ち上げ(昨年11月、福島県南相馬市)

東北の地を「面」で捉えた宇宙産業の広がりについては、東北全体を見渡してみよう。広い視点で見つめ直すと、東北には、宇宙航空が市内に5社ある。南相馬で部品の製造や、小型ロケット発射など、各社がこの地でそれぞれの成長を目指している。同市は縁の下を力持ちとして、環境整備に目を向ける。

11年の東日本大震災後、津波や原子力発電所事故で失われた産業の復興には、新産業の創出が不可欠と南相馬市は考えた。その後ロケット・ドローンの研究開発拠点「福島ロボットテストフィールド」が同市に整備されている。



「同」と次なる飛躍を誓う。

空を見上げる
宇宙には人を引きつける

未知の魅力がある。2024年11月、福島県南相馬市小高区で、ユニーススペースと呼ばれる宇宙スタートアップ企業のAstoroX（南相馬市）が全長6.3メートルの自社開発ロケットの打ち上げに成功した。関係者をはじめ地元住民など数千人が見守る中、この音とともに天空に上った。福島県郡山市から来た男性は「ぜひ見てみたかった」と興奮を隠さなかった。東日本大震災から14年が

経過。震災後、南相馬市にはドローンやロボットを実際に動かせる広大な実証試験場「福島ロボットテストフィールド」が生まれた。それに伴い、同市にはロボット関連企業が集まり、今はユニーススペース企業が集まりだした。

次の一手は宇宙だ。ただ、産業創出は南相馬だけでは完結できるものではない。東北全体を見渡してみよう。広い視点で見つめ直すと、東北には、宇宙航空が市内に5社ある。南相馬で部品の製造や、小型ロケット発射など、各社がこの地でそれぞれの成長を目指している。同市は縁の下を力持ちとして、環境整備に目を向ける。

11年の東日本大震災後、津波や原子力発電所事故で失われた産業の復興には、新産業の創出が不可欠と南相馬市は考えた。その後ロケット・ドローンの研究開発拠点「福島ロボットテストフィールド」が同市に整備されている。

ただ、燃焼試験には騒音が発生するため広大な土地が必要で、さらに土地取得や試験をするには地元住民の理解が欠かせない。そのため市として「企業が実証できる環境を構築していく」との方針。これらの試みを通して「南相馬に行けば何か相談に乗ってくれるのではないかな」と思ってもらえる存在を目指す。

新たな夢へ関連企業集結

東北が生んだ作家・宮沢賢治は、銀河鉄道に乗って夜空を旅する物語「銀河鉄道の夜」で宇宙を身近に感じさせてくれた。例年、多くの人が杜の都・仙台を訪れる仙台七夕まつりは、仙台藩祖・伊達政宗公の時代まで遡り、古くから七夕の行事があったとされる。織り姫と彦星の出会いに、東北の地で人々は夜空にそれぞれの夢を願った。さて、時代は令和の世。東北の地から空を見上げる光景は、ロケットなどの輸送手段を使い、モノや人が宇宙と行き来するような新たな夢を描くこととしている。

具体的なもの話はまだ見えていない。そこで、25年度、東北経済産業局は、「東北地域におけるユニースペース企業の成長加速化」および宇宙産業の拠点形成に向けた可能性調査」に乗り出す。こうした宇宙関連の調査は今回が初の試みになるという。

ロケットなどの輸送手段の開発を手がけるユニースペースには、「近くで使える燃焼施設がほしい」とのニーズは高い。今回の調査では、具体的な実証の場が

星などの製品開発に伴う航空宇宙分野との親和性が高いとされる。そのため南相馬市では宇宙スタートアップ企業の受け入れを積極的に進めてきた。市は24年に「宇宙関連産業推進室」を開設。25年度には職員を前年度の3人から5人へ増やした。また市内には小型ロケットの打ち上げ場があり、24年度は計3基が空に昇った。25年度も計3基の打ち上げが計画されている。

東北産業特集

作る・造る・創る

～すべての“つくる”をともに～

株式会社 東機工

〒984-8550 宮城県仙台市若林区卸町5丁目3番2号
TEL (022) 353-5744 FAX (022) 353-5766
営業所：仙台・秋田・古川・宇都宮・郡山
URL: <https://www.azumakikou.co.jp/>

自動化 × 省力化装置
設計開発・製造・販売

TR トラスト・メカ株式会社

〒981-4413 宮城県加美郡加美町
島屋ヶ崎字泥坂屋敷114番地1
TEL: 0229-67-7026 FAX: 0229-67-7028
e-mail: trust-m@mvd.biglobe.ne.jp

経営セーフティ共済

経営セーフティ共済制度の特長

1 掛金の10倍の範囲内で
最高8,000万円まで貸付け

2 貸付条件は 無担保・無保証人

3 掛金は税法上
損金(法人)または必要経費(個人事業)に

※経営セーフティ共済は、取引先事業者が倒産し、売掛金債権等が回収困難になった場合に、貸付けが受けられる共済制度です。「もしも」のときの資金調達手段として、当面の資金繰りをバックアップします。

加入や加入後の一部手続きがオンラインで可能！

経営セーフティ共済 検索

新しい時代の新しい技術を
山形で開発・製造し
世界へ発信中

ススキハイテック株式会社

山形からめっきでレボリューション

代表取締役社長 鈴木一徳

山形工場/電動車めっき事業・MEMS事業
〒990-0051 山形県山形市鶴町二丁目2番30号 TEL: 023-631-4703

尾長島工場/半導体製品・電子部品めっき事業
〒999-0213 山形県東置賜郡川西町大字尾長島740-12 TEL: 0238-54-3615

ダイカストのプロとして

信頼に応える技術と製品の提供を通じて
社会に貢献いたします

岩機ダイカスト工業株式会社

〒989-2204 宮城県亘理郡山元町麓足山崎51-2
TEL: (0223) 37-3322 (代) FAX: (0223) 37-3720
URL: <https://www.iwakidco.co.jp>

成長ステージや経営課題に応じた支援メニューで
中小企業の成長をサポート

独立行政法人中小企業基盤整備機構 東北本部
〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル6F

東北の企業・支援機関

2025年度に入って間もなく半年。東北地域の景況は「持ち直しの動きに足踏みがみられる」との認識が強い。「極端な落ち込みがある」との声は少ないながら、「踊り場にある」との声は多い。現状は体力強化を図り、新たな飛躍への準備が進む。先行きに不透明感が残る中、各企業の戦略が一段と問われる。次の一手へ。そこで、東北の企業・支援機関の将来に向けた取り組みを紹介する。

福島製作所

福島市



福島製作所が手がける複葉弁

水力発電部品で日大と共同研究

複葉弁開発、知見生かし水力損失低減生かす。

福島製作所（福島市、太田光一社長）は2025年から福島県郡山市にある日本大学工学部機械工学科流体システム工学研究室と、水力発電機器向け入口弁の共同研究をスタートさせた。大学の流体力学に関する知見を活用し、機器内を流れる水の通り道に設置される入口弁の最適な構造などを探り、その成果を同社の部開発に

イワフジ工業

岩手県奥州市



新型の木寄せウインチ

新型木寄せウインチ

小型でパワフル 引っ張り力45%向上

林業機械のイワフジ工業（岩手県奥州市、有吉美社長）は、モデルチェンジした小型でパワフルな木寄せウインチの受注を4月から始めた。新たな油圧ウインチ「TW-25A」は、従来機と比べ引っ張り力を45%向上させた。

重量は150kg、ベースプレートを含む。グラブと併用により、集材から引き寄せ、整理など木寄せの一連の作業を一台の機械で効率的に行える。通常はワイヤロープに対応。オプションにより繊維ロープにも対応できる。現場のニーズにより選択可能とした。

創立75年を迎えた2025年、イワフジ工業は、これまでの歩みを振り返るとともに、持続可能な林業の未来を見つめながら、会社の新たな「ロゴ」を打ち出した。単なるデザイン刷新ではなく、「新たな決意を込め、一歩」を示した形だ。ロゴのリニューアルでは、①「変化への挑戦」②「一貫した信頼性」③「イワフジ工業の未来」の三つの思いを込めた。

和同産業

岩手県花巻市



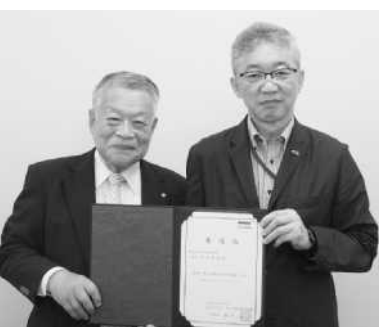
新型のインバーター発電機

電動除雪機を刷新

簡単操作で住宅などの雪寄せに対応

除雪機を主力とする和同産業（岩手県花巻市、三國卓郎社長）は、市場の深耕に向けて新たな製品を投入した。電動スノーブレード（除雪機）のフルモデルチェンジとなるのが「e-SB81」。4月から先行予約をスタートしており、段階的に浸透を図っている。前モデルを刷新したe-SB81は、住宅や小規模駐車場などの雪寄せに対応する。簡単で操作にこだわったのが大きな特徴だ。電源は右側に配置したスイッチ一つで対応できる。リチウムイオン電池（Li-Ion）を搭載し、フル充電で約60分利用可能。対応する雪質は、新雪に近い状態を推奨する。一方で開発を進めていた新型発電機も市場投入した。定格出力3000Wのインバーター発電機「WG3000i」だ。軽量化を追求し、全長510mm×全幅300mm×全高480mm。本体重量は24・5kgになる。精密機器にも使える安定した電力供給ができる。

中小企業基盤整備機構東北本部



委嘱状を手渡された大和三光製作所社長の太田輝明氏

中小企業応援士に経営者3人

地域中小企業に支援メニュー伝える

中小企業基盤整備機構東北本部（仙台市青葉区、矢内友則本部長）は、2025年度の東北管内における「中小企業応援士」を計3人の経営者に委嘱した。同応援士は、中小機構の支援メニューなどを地域の中小企業に伝える役割を担う。この取り組みは10年度に設けられた。本年度は東北を含め、

伊藤製作所

山形市



生産性向上に取り組む本社工場

部品増産へ備え

バー材供給機能付き加工機導入を計画

半導体製造装置関連部品、自動車用各種機能部品、建設機械関連部品などの精密切削加工、組み立てなどを手がける伊藤製作所（山形市、伊藤明彦社長）。現状の景況感について、伊藤社長は「いい意味で横ばいにある」との認識を持つ。主力の半導体関連については、本年度について調整局について調整局の動きが見られ、今後の動向を注視している。

大手の設備投資の動きに鈍さも見られるが、一部で前倒しの動きもあるという。伊藤製作所としても新たな投資に前向きな姿勢を示す。11月頃をめどにバー材供給機能付きの新たな加工機の導入を計画。半導体関連部品などの増産に備える狙いだ。これに伴い、「工場内のレイアウトも変更していく」（伊藤明彦 取締役）としている。新設備は2026年1月の稼働を目指す。

生産管理面を向上させる新システムの運用は、一部機で始まっている。付加価値の高いモノづくりへの進化を狙う。生産管理システムとしての本格運用を視野に入れている。

スズキハイテック

山形市



「新たな挑戦」を強調する鈴木社長

モルフォ蝶の羽構造を数値解析

環境配慮型着色技術の確立を目指す

「かなりチャレンジングな試みになる」。スズキハイテック（山形市）の鈴木一徳社長は、新たなプロジェクトの取り組みをこう強調する。今回のプロジェクトは、モルフォ蝶の羽の青く見える構造を数値解析し、工業的に再現するバイオメタリクス（生物模倣）技術の研究開発を進めるも

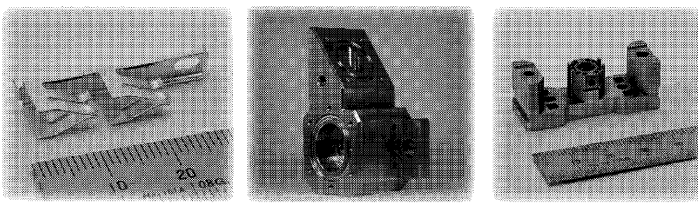
のだ。環境配慮型の着色技術の確立を目指す。

経済産業省の「成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech事業）」の採択を受けて取り組む。研究開発期間は3カ年を予定。メッキ会社のスズキハイテックが事業リーダーとなり、山形県工業技術センター、山形大学などが研究開発で連携する。管理機関は、やまがた産業支援機構が担う。

現在、MEMS事業などの新規事業にも力を入れるスズキハイテック。2022年度から3カ年で取り組んだGo-Tech事業では、フナシの脚表面にある微小流路構造を再現する生物模倣シートの開発を進めた。一段のレベルアップを狙う。

東北産業特集

量産プレス・治工具全般・生産設備類試作製作、金型の設計・製作



製品を「造る」から「創る」へ

株式会社 岩沼精工

〒989-2421 宮城県岩沼市下野郷字大松原305-3
TEL:0223-29-2121 FAX:0223-29-2122
http://www.iwanuma-seiko.jp/

岩沼精工をもっと知りたい方はこちらをご覧ください▶▶

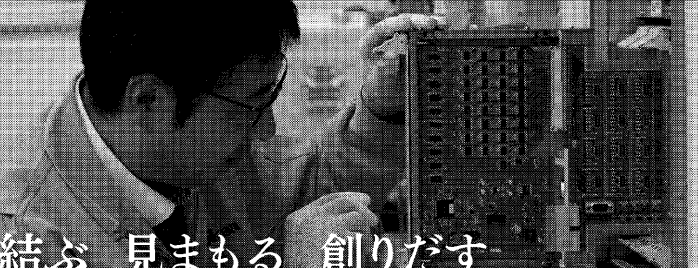
次代を築く、最先端のソリューションを

CONCEPT ENGINEERING



美和電気工業株式会社 東北支社

〒981-3205 宮城県仙台市泉区紫山3丁目1-2
TEL 022-706-3111(代) FAX 022-706-3110
https://www.miwadenko.jp/



結ぶ 見まもる 創りだす

通研電気工業株式会社

〒981-3206 仙台市泉区明通3-9(東パークタウン工業流通団地内)
TEL.022-377-2800(代) FAX.022-377-9217
●支社／青森・岩手・秋田・宮城・山形・福島・新潟

ガスの未来、その一歩先へ

Our Future, Take one step

東邦アセチレン株式会社

代表取締役社長 堀内 秀敏

本社 〒985-0833 宮城県多賀城市栄二丁目3番32号
TEL: 022-366-6110 FAX: 022-366-6170 www.toho-ace.co.jp

天然ゼオライト（モルデナイト）の採掘加工及びゼオライトの応用製品の製造販売、ペット用品の製造販売

新東北化学工業株式会社

代表取締役社長 三戸 知

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1丁目4番10号 庄建上杉ビル6F
TEL: 022-225-2724 FAX: 022-225-2725 http://www.s-zeolite.com/

1.5 広辞苑

2018年に10年振りに行われた広辞苑の改訂では、約1万語が新たに追加され、10年間の言語の進化と変遷が反映されました。

新語として広辞苑に載るには、その言葉が『日本語として定着しているか』または『定着する可能性があるかどうか』が判断基準とされていますが、その中に再生可能なエネルギーである『地下水熱』『地中熱』という言葉はありませんでした。

次回改訂において『地下水熱』『地中熱』が広辞苑に掲載されるエネルギーとして社会に認知されるよう、私たちはこれからも『地下水熱』『地中熱』の可能性を追求し続けます。

日本地下水開発株式会社

www.jgd.jp

本 社 / 〒990-2313 山形県山形市松原777 TEL.023-688-6000 FAX.023-688-4122

わが技が奏でる調べに敏感。



研究技術開発の新領域をクリエイト

You need it. We create it.

株式会社 東栄科学産業

本社 / 〒982-0032 仙台市太白区高沢四丁目8番29号
TEL.022-743-3221(代) FAX.022-743-3235
http://www.toei-tc.co.jp/

物作り・何でも作る技能集団

環境を守るEcoリユース

開発と研究に余念のない

梶原電気株式会社

代表取締役 梶原 功

〒984-0031 宮城県仙台市若林区六丁目 字南39番先4街区2画地
TEL (022) 288-9210 FAX (022) 288-9232
http://www.k-e-c.co.jp
E-mail:kajiwara@k-e-c.co.jp

新たなモノづくりへの挑戦

シェルター

山形市



シェルターが開発した「クールウッド」

欧州市場を開拓

木造耐火技術 スイス・ヘリングに供与

木造耐火技術を用い、都市部での木造ビル普及に力を入れるシェルター(山形市、木村)天社長。その技術力は海外からも熱い視線が注がれている。

同社は木造建築の耐火技術など、都市部での木造ビル建築に向けた構築技術をスイスの木造建築会社ヘリング(エイケン)に供与

した。欧州で大規模木造建築の実績を持つヘリングを通して、公共建築物への採用など欧州市場の開拓を促す狙いだ。6月にシェルターの木村一義会長がスイスを訪れ、技術供与の契約を結んだ。

シェルターが持つ木造耐火技術の海外供与は、2023年にスイスのウォルトガルマリニ(チューリヒ)、24年に米国のマグナツソン・クレメンシック・アソシエイツ(MKA、ワシントン州)に続き今回が3例目。

具体的には、シェルターが開発した木造耐火部材「COOLWOOD(クールウッド)」と接合金物工法「KES構法」を用いた木造構築技術を提供することで合意した。

ウエノ

山形県鶴岡市



新型のアルミ線ノイズ除去コイル(右)と従来のコイル

新型ノイズ除去コイル

軽量・安価なアルミ線使い同等特性

ノイズ除去コイルメーカーのウエノ(山形県鶴岡市、上野隆一社長)は、独自の発想を取り入れたコイルを世に打ち出している。新たに問いかけているのが価格を意識した製品だ。最新のコンセプトで開発したのがアルミニウム線を用いたノイズ除去コイルだ。

一般に同コイルはコア(磁心)に銅線を巻く。銅価格が上昇した中、銅に比べ軽量かつ安価なアルミを採用。既存コイルと同等の特性を持つことを各種評価試験で確認した。新型コイルは、約35%の原価低減を見込み、価格を強く意識した点を顧客に訴求する。

同社は2012年にアルミ線ノイズ除去コイルの開発に着手した。近年における銅価格の上昇に伴い、23年に新型コイルの実用化へ踏み出した。アルミ材を使うことで軽量化も実現した。アルミ線ノイズ除去コイルのコアには、ハインズ製の製品に使う薄帯の磁性体合金をリング状のコアに最適化。アルミ線の表面には銅を被覆した。海外に負けない価格を追求する。

片桐製作所

山形県上市市



試作したギア

新加工法で工程短縮

サーボプレス使い切削レスのギア試作

片桐製作所(山形県上市市、片桐均社長)は、新たな加工法による工程短縮などの提案に力を入れている。2024年11月には、本社工場内に加圧能力400トンのサーボプレスを導入した。これを用いた独自の加工法により切削レスのギアなどを試作した。7月に開か

れた展示会などで披露した。訴求するのは素材から切削工程なしでギアを製作する試み。電動台車などに使われる手のひらサイズのギアとなる。サーボプレス活用により新たな領域を切り開いていく方針だ。新加工法は社内で行った。上下に油圧シリンダーを装着した内製のダイヤモンド独自設計の油圧装置を組み合わせたシステムになる。

サーボプレスを用いた新加工法でのモノづくりは、圧力をどのように制御していくか。ここが肝だったという。ギアは当面の一つの例として示していくことになる。生産現場における切削加工の削減などコスト減に寄与できる点を呼びかけていく。

インセムテクノロジー

山形県鶴岡市



開発した質量分析装置に搭載可能なキャピラリー電気泳動システム

質量分析装置に搭載可能

キャピラリー電気泳動システム開発

インセムテクノロジー(山形県鶴岡市、平山明由社長)は、質量分析装置(MS)に搭載可能なキャピラリー電気泳動システム(CE)を開発した。ライフサイエンス領域における計測現場の効率化につなげるのが狙いだ。ユーザー評価に必要な段階までの試作機を仕上げており、今後は医薬

品、食品分野などの顧客を開拓し、実用化を目指す。

たんばく質などの高感度な測定には、CEとMSを組み合わせた測定がある。すでに同社は、各メーカーのMSに搭載できるインターフェースなどを開発しており、こうした技術に応用した。同社によると、今後は、ライフサイエンス関連の研究機関を対象に提案営業を行い、「試作機の評価に取り組みたい(平山社長)」としている。

経済産業省の「成長型中小企業等研究開発支援事業(Go-Teach事業)」の採択を受けて、2022年度から3カ年で取り組んだ成果の一環。インセムテクノロジーははじめ慶応義塾大学などがタッグを組んだ。

トラスト・メカ

宮城県加美町



金属部品を自動で袋詰めする専用機を開発した

新規参入の包装機械が好調

食品などの袋詰め自動化装置投入

トラスト・メカ(宮城県加美町、越後浩社長)は新規参入した包装機械事業が好調だ。電子部品などの組立装置の開発・製造の技術を応用。手作業だった食品や医療品などの袋詰めを自動化する装置で受注を重ねている。

上位機。ビニール袋を吸着で拾い上げて広げ、リング状の薄い金属部品を袋に入れる。複数のセンサーで一連の工程の正確性を高め、第2創業を見据え、自社製品による新規事業に挑戦したい。

(越後社長)と、24年に初号機を発売。小型、価格競争力などが評価され、幅広い業種から受注している。中でも売上高の9割超が食品向けだ。

中小食品加工会社や直販を手がける生産者は人手不足と高齢化の課題を抱え、自動化が必須。こうしたニーズに合致している。今後は包装機を軸に計量器など前後の付帯機を含めた提案により力を入れる。

東邦アセチレン

水素の生産能力倍増

酒田市の工場増強 安定供給体制を確立



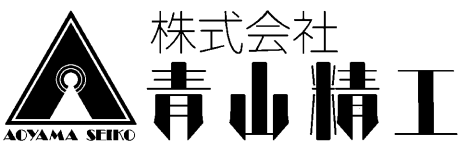
新しい水素設備の前に立つ堀内社長

東邦アセチレンは、山形県酒田市の工場を増強し、水素の生産能力を2倍の毎時600立方メートルに引き上げた。半導体産業向けをはじめとした水素需要の高まりに対応する。能力拡大とともに製造方法を大幅に見直し安定供給を図る。都市ガスを購入して水素を取り出す。これまではカセイソーダの生産時に発生した粗水素を外部から調達し水素を製造していた。カセイソーダの需給バランスに依存するため、安定供給が課題だった。設備投資額は約10億円。8月上旬までに新しい製造設備の商業運転を始めた。東北に集積する半導体やエレクトロニクス、発電所、石油・ガラスなどの業界へ供給していく。

水素の発生方法は多くあり、東邦アセチレンはカセイソーダの生産時に生じる粗水素から水素を製造してきた。粗水素を調達に頼っており、機敏に供給するのに懸念があった。豊富な都市ガスから水素を生成する方法に改め、この課題を解消したことになる。

東北産業特集

硬脆性材・難削材の微細加工を部品1個から承ります!!



【本社】〒018-5337 秋田県鹿角市十和田末広字紀ノ国平42
TEL 0186-35-3350 FAX 0186-35-4887
Email: apico@aoyama-pi.co.jp
URL: https://www.aoyama-pi.co.jp/
【神奈川営業所】〒252-0335 神奈川県相模原市南区下溝1998-7
TEL 042-777-8277 FAX 042-777-8277
Email: kanagawa@aoyama-pi.co.jp



5軸制御超音波ロータリー加工機・超音波ユニット搭載マシニングセンタ
5軸マシニングセンタ・複合加工機・各種研削機・ワイヤ放電加工機
3Dプリンタ・各種フライス盤・ウォータージェット加工機・各種測定器

地域とつながり、未来へつなげる。

Yurtec
株式会社 ユアテック
www.yurtec.co.jp

総合設備エンジニアリング企業として、高品質の技術と新しい価値を提供します。
本社/山形県鶴岡市山形町1-1-1 TEL: 023-296-2111
東京本部/東京都千代田区大塚2-2-1 TEL: 03-3243-7111
支社/青森・岩手・秋田・宮城・山形・福島・新潟・北海道・東京・横浜・大阪
※ユアテックは「ユアテックシステム株式会社」の完全子会社です。

門型5面マシニングセンタ2台導入により
大型装置フレームから重量製缶製品まで

産業機械事業部 MCR-A5C インフラ鉄構事業部 RB-6MII

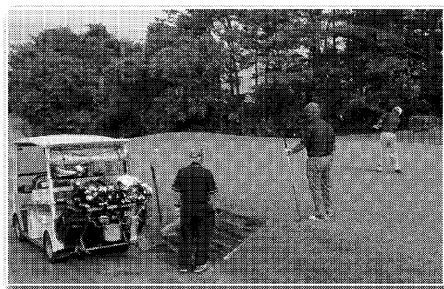
「高剛性・高精度」加工が対応可能に!

TEKO 東北鉄工株式会社
URL: https://www.teko-tekk.co.jp

本社 〒017-0012 秋田県大館市新堀内字稲荷山下19-1
Tel: 0186(48)3234 Fax: 0186(48)5922
TEL 産業機械事業部 0186(48)6310 インフラ鉄構事業部 0186(42)3257

東北地方に事業所や工場をお持ちの全国の企業の皆さま
宮城・山形・福島産業人クラブへのご入会をお待ちしております

地元企業や経営者との交流、人脈づくりに是非ご活用下さい



お問い合わせは…
■宮城産業人クラブ 山形産業人クラブ
〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-10-11
☎ 022-225-8734
■福島産業人クラブ
〒960-8068 福島県福島市太田町8-8-203
☎ 024-573-6105

ホームページもご覧下さい www.nikkan.co.jp/sangyojin/

KYOHU 地域未来創生企業

精密加工技術を活かし、
「ものづくり」で社会に貢献します

【事業内容】
①産業用省力化機械装置・治工具等の設計・製作
②精密機械部品製造
③精密プレス・モールド金型設計・製作
④精密金型部品製造

取得認証 ISO9001/ISO14001/JIS Q 9100

キョーユー株式会社
〒987-0006 宮城県遠田郡美里町関根字新苗代江123
TEL 0229-34-2329 FAX 0229-34-1965 E-Mail info@kyoyu.jp
URL https://www.kyoyu.jp

UENOのアルミコイル
価格破壊の実現!!

アルミニウム線使用!!
専用巻線機の開発!!
ナノ結晶磁性材!!

新型ウエノコイル
(素材: ナノクリス(合金)+アルミニウム線)
自動巻線機による製造

HIGH QUALITY & HUMAN TECHNOLOGY
UENO
株式会社ウエノ
山形県鶴岡市三和字堰中100 TEL 0235-64-2254 https://www.uenokk.co.jp